

# 麗気烈風

令和3年10月6日(水)

文責 村田和人

～ 教育は「共育」「協育」「強育」で ～

## ～ 【 経験は人を創ります 】 ～

キンモクセイの香りで、爽やかな朝を迎えるのが毎年10月に入る頃のイメージなのですが、今年は9月初旬の気温が続く変な天気が続いています。8月後半の長雨といい、10月の高温といい、地球の気候がだんだん変化しているのかもしれませんが、ただ晴天が続くということは、子ども達が外に出てどんどん遊び、またバリバリ部活動もできるということで、コロナ対応でたまったストレスが十分発散できればと思います。ただ油断は禁物ですが。

さて10月は「行事の月」でもあります。生徒会役員選挙、中体連駅伝大会、3年生の合唱コンクール、学習発表会、さらに各部では新人戦シーズンを迎えています。学校生活の楽しさを実感できる月です。先日は3年生の「修学旅行」が無事に完了しました。第5波が沈静化に向かいつつありますが、どうか第6波が発生しませんようにと、毎日祈る気持ちでニュースを見ています。

月曜日から生徒会役員選挙に向けた立候補者の挨拶運動が始まりました。「おはようございます!」「〇年〇組の□□□□をよろしくお願ひします!」と候補者、応援者の元気な声が飛び交っています。コロナによる沈滞した空気を一気に吹き飛ばすようなエネルギーを感じ、とても嬉しく思います。当選、落選は時の運。大切なことは再び返らぬ中学校時代に、自分の考え、意見を全校生徒の前で臆せず発表したという経験を、ということです。

経験は人を創ります。そして人生は経験の連続です。いつどこでどんな人に出会いどんな経験をするか、こうした経験の累積でその人その人の人生が形作られていきます。鹿南中生であるときに、全校生徒300名の前でスピーチをした、という経験は必ず大きな自信につながります。中学生時代の私は、帰りの会での1分間スピーチがいやでいやで1週間前から悩んでいました。今回、勇気をもって立候補してくれた生徒の皆さん、本当に敬意を表します。すばらしい立ち合い演説会になることを期待しています。

生徒の皆さん、立候補者一人一人の話をよく聞いて、自分の判断のみで投票してください。それが立候補者に対するマナーだと思います。



## ～ 【 「夏の騎士」より 】 ～

読書の秋です。私は買ったままで、読みたいと思いつつも本棚に立てっぱなしの本を読みました。その本は、百田尚樹著『夏の騎士』です。

3人の仲良し小学生の男の子が、憧れの女子を護衛する「騎士団」を結成し、いろいろな人と関わり、経験する中で、本当の勇気に気づき、成長していく物語です。この本の一節に、是非、鹿南中の皆さんに伝えたい!と思う文がありましたので、紹介します。

～正直に言えば、ぼくは今でも受験勉強などくだらないと思う。メンデレーエフの周期律表やオームの法則、ヘレニズム文明の歴史

的意義、微分積分の公式、平安時代の4段活用などを覚えて何になるのかなと思う。研究者や技師には必要だが、ぼくらのような一般人にはまず人生で使うことも応用することもない。(中略)だが、これらはアスリートにとってのトレーニングのようなものなのだ。筋肉に負荷をかけることによって肉体が強くなるように、精神と脳も負荷をかけることによって成長するのだ。逆に子ども時代や十代にそうした負荷をかけずに過ごした者は、社会に出て苦勞することになる。大人になってから、いやな仕事や退屈な仕事を続けることに根気をなくす人をよく見たが、全員とは言わないまでも、子ども時代や十代の頃にそうした負荷を背負わずにきた人が多かったように思う。～

3年生の皆さん、共通テストが一ヶ月後に迫っています。共通テストが終わったら進路学習会が実施され、その次には三者教育相談、志望校決定、年が明けたらいよいよ私立高校の入試を迎えます。

これからの半年はスケジュール感覚が大切です。志を立て、簡単に妥協せず、最後の最後まで貫いてほしいと思います。まずは全身全霊を尽くして共通テストを乗り越えてほしいと思います。

